

令和 3 年度（2021年度） シラバス

教科	公民	科目	現代社会	1学年	必修	2単位
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。					
教科書	現代社会(東京書籍)			副教材	最新図説 現社(浜島書店)	
準備物	なし					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】	【探究力】	【創造力】 【共感力】
割合	50%	30%	20%
A	社会事象を具体化・抽象化して捉えることができる	自ら立てた問いに対し解決への道筋を探ろうとする	時代や社会の変動を見据えて、複合的な視点から新たな価値を提案しようとする。 他者や社会との関係性の中で、適切な自己の役割を見出そうとする。
評点	42～50	26～30	17～20
B	社会事象を主観と客観に分けて捉えることができる。	自ら問いを立てようとする。	現状の課題を認識し、自ら次の段階を切り拓こうとする。他者の存在や社会の在り方を受け止めようとする。
評点	16～42	10～25	9～16
C	社会事象を主観で捉えることにとどまっている。	問いを与えられることにとどまっている。	現状の社会に流されている。自らの世界にとどまっている。
評点	～15	～9	～8
評価方法	定期考査	定期考査 思考のフレームワーク	学びの発見ノート

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	第2部 第1章 青年期と自己形成の課題	教科オリエンテーション(現代社会の学び方) 1 現代社会と青年の生き方 1 現代社会と青年～グローバル化した社会
5	第2部 第5章 国際社会と人類の課題	1 国際政治の仕組みと動向 1 国際社会の特質 2 国際紛争避けるしくみ 3 国際連合と安全保障 4 国際連合の役割と課題 5 冷戦とその後の世界 6 軍縮への取り組み 2 国際経済のしくみと動向 1 貿易と国際分業 2 外国為替のしくみと国際収支 3 戦後国際経済の枠組みとその変化 4 対立と協調の時代 5 グローバル化する経済 3 国際社会の現状と課題 1 地域統合の進展 2 変容する世界経済 3 国際的な格差の是正 4 地域紛争と難民問題 5 国境をこえて広がる地球規模の課題 6 日本の役割 第1部テーマ1 地球環境問題
6		
7		
8		
9		前期期末考査
10	第2部 第1章 青年期と自己形成の課題	※人口減少時代における未来のよりよい社会とは？ 1 現代社会と青年の生き方 1 現代社会と青年～少子高齢化と人口減少社会
11	第2部 第4章 現代の経済と国民福祉	3 豊かな生活の実現 3 現代の雇用・労働問題 4 社会保障の役割+顕在化する格差社会 1 経済のしくみ 3 市場経済のしくみ 7 政府の役割と財政+身のまわりの税とその考え方 3 日本の政治機構 4 地方自治
	第2部 第2章 日本国憲法と民主政治	後期中間考査
11	第2部 第1章 青年期と自己形成の課題	※科学技術発展時代における未来のよりよい社会とは？ 2 よりよく生きることを求めて 3 近代科学の考え方 テーマ3 科学技術の発達と生命 テーマ4 情報化の進展と生活
12	第1部 私たちの生きる社会	2 よりよく生きることを求めて 5 人間性の回復を目指して 実存主義～現代のヒューマニズム 1 現代社会と青年の生き方 2 青年期の発達課題 2 よりよく生きることを求めて 1 哲学と人間 2 宗教と人間 6 日本の伝統思想の考え方 7 外来思想の受容と日本人の自覚
1	第2部 第1章 青年期と自己形成の課題	
2		後期期末考査
3	第2部 第2章 日本国憲法と民主政治	※主権者としてよりよい社会をどう実現するか？ テキスト「私たちが拓く日本の未来」 4 現代政治の特質と課題 1 現代社会と法
	第2部 第3章 現代社会と法	

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1) グローバル化の進展では、国内社会と国際社会の構造の違いを踏まえて、政治や法・経済の本質的なあり方を重視して、国際社会における課題について主体的に考察する態度を培います。
- (2) 人口減少社会の進展では、少子高齢化と密接な関係がある社会保障や日本の財政、地方自治について踏まえ、少子高齢社会における課題について主体的に考察する態度を培います。
- (3) 科学技術の発展では、急速に発達する科学技術に対し、人間のあり方を踏まえて、社会と人間がどのように関わるべきかについて主体的に考察する態度を培います。
- (4) 目標を達成するために、講義を主として進めますが、グループ学習や授業での気づきを重視し、多様な言語活動によって表現する活動を行います。また、外部人材を登用し、社会に対する認識を広げます。